

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091900052		
法人名	社会福祉法人 真養会		
事業所名	グループホーム 老花家		
所在地	〒825-0002 福岡県田川市大字伊田2585番地4 Tel.0947-50-8800		
自己評価作成日	令和03年02月25日	評価結果確定日	令和03年04月08日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●法人の基本理念『真心のこもった対応で 真剣に福祉に取り組み 真の福祉社会に貢献します』のもと、利用者様お一人お一人の個性を尊重し、その方らしく生き生きと暮らせるよう、受容の姿勢で支援している。●余暇活動に於いても、その方の嗜好に合った、今現在出来る事を、職員とともに機能訓練を兼ねて取り組んでいる。●掃除・洗濯物畳み・食器洗いなどの家事を【生活の場】の役割として担って頂くことで、利用者様の尊厳を護り、活気のある日常を営めるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel. 093-582-0294		
訪問調査日	令和03年03月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田川市郊外の住宅地の中に、デイサービス併設の定員9名のグループホーム「老花家」がある。2013年4月開設当初から、利用者一人ひとりの個性を尊重したその人らしい暮らしの支援に取り組み、生活の場として役割(掃除、洗濯物たたみ、食器洗い等)を担ってもらうことで、活気のある日々が送れるよう努めている。利用者の嗜好に配慮しながら職員が作る家庭的な料理を提供し、入浴も毎日可能な体制を整え、グループホーム特徴のきめ細やかな支援が行われている。令和2年6月から管理者が着任し、コロナ禍で運営推進会議が開催出来ない為、顔合わせを兼ねて報告書を持参したり、家族にも密に報告、連絡を行う等、コミュニケーションに努め信頼関係を築いている。新管理者をベテラン職員が支え、真心のこもった対応で親身になって、利用者や家族に寄り添っているグループホーム「老花家」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼と終礼に於いて、唱和している。利用者様一人ひとりの個性を尊重し、その方らしく生き生きと暮らせるよう、受容の姿勢で支援している。	毎日の朝礼、終礼時に、法人理念を唱和して理念の共有に努めている。職員は、理念の下、利用者一人ひとりのその人らしい暮らしを全力で支え、利用者の生き生きとした暮らしの支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や校区行事への参加の依頼があれば、天候や体調を鑑み参加させて頂く。	コロナ禍以前は、地域の清掃活動や盆踊り大会、敬老会に積極的に参加し、法人全体の夏祭りには、地域住民や家族、ボランティアの参加もあり、地域交流が行われていたが、現在は自粛中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者に対する対応についての研修を不定期で行っており、併設のデイサービスと連携をはかり、情報の収集と交換に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響もあって、毎月の職員会議の議事録を基に報告書を作成・開示し意見を求めることを以て運営推進会議としている。管理者が変わったこともあり、参加者と馴染みの関係を構築し、忌憚ない意見が交わせるよう働きかけを行っている。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、地域や行政との情報交換の場として充実した会議になっていたが、現在はコロナ禍の為、書面にて利用者状況、交流、行事等の実施状況、苦情、事故等について報告を行っている。管理者が交代したため、顔合わせを兼ねて報告書を持参して挨拶し、意見等を聴き取っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括からの空き状況の問い合わせに応じたり、ケースワーカーと常に情報交換に努めている。	管理者は、行政担当窓口にはホームの空き状況や事故報告を行い、疑問点や困難事例を相談する等、情報交換しながら連携を図っている。また、(コロナ以前は)運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を伝え、意見や情報提供を受ける等、協力関係を築いていた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に利用者様の出入りは可能で、希望に応じ付き添いでの対応を行っている。身体拘束に関する研修資料を回覧するなど、職員の意識付けも不定期で行っている。	新型コロナウイルス感染症対策のため、密を避け、身体拘束についての資料を回覧することで、今年度は研修を行っている。毎月の職員会議の時にも話す機会を設け、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束が利用者にも与える影響について、職員一人ひとりの理解を求めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修資料を回覧するなど、職員の意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだ事柄は、職員会議等で職員へ発信する機会を設け周知している。	権利擁護の制度について会議の中で学ぶ機会を設け、利用者や家族にとって重要な制度であることを、職員が理解している。利用者や家族から相談があれば、資料やパンフレットを用いて、制度の内容や申請方法を分かりやすく説明し、利用者の権利や財産が損なわれないよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約・改定等に際して、十分な説明を行った上で、理解と納得を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や日常生活の中での会話の中で、傾聴に徹しニーズを探っている。またケアプランの見直しに際し、利用者様とご家族へのアセスメントを徹底している。そのプランを基に、個別ケアを実践している。	日々共に過ごす中で、利用者の意見や要望を聴き取り、出来る範囲で実現している。また、家族が利用料の支払いに来訪した時や電話等でも、極力話をする機会が持てるようにして、利用者の様子を伝え、家族の意見や要望を聴いている。毎月「老花家だより」を発行し、遠方の家族からも好評である。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の【意見交換会】に際し、前以て職員全員から議題を提案してもらったり、意見を持って会に臨み、意見や情報の共有や問題の解決法を全員で検討・実践している。記録を残し、全員が閲覧できるよう保管している。	「意見交換会」を毎月定期的に開催し、予め議題を募り、それをまとめた紙を配布して事前に記入してもらったうえで参加をお願いし、当日出席できない職員も書面で参加するなど、意見や情報の共有に努めている。出された意見は出来るだけ介護サービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	この仕事に誇りをもって臨めるよう、研修体制を整備している。休憩時間の確保や、希望休等についても対応している。又、記録用紙の書式改定などを通し、業務改善は継続している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたり、性別年齢は問わず、人柄と意欲が一番の条件と考える。勤務時間・勤務日数や希望休などについては、職員間でコンセンサスを取り、働きやすい職場環境作りを行っている。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、働く意欲や人柄を優先して採用している。職員の休憩時間の確保や希望休、勤務時間に勤務日数等、それぞれの事情に柔軟に配慮し、職員が働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼・終礼の申し送りは勿論、毎月定例開催の【意見交換会】を通じて、利用者様お一人お一人の個性やニーズを知り、尊厳を護るよう努めている。	利用者の人権を尊重する介護の在り方について、職員会議や毎日の申し送り時に話し合い、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に配慮した介護の実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、認知症介護に関する知識や技術の向上を目指し、常時研修資料の掲示や回覧を実施している。また、研修案内も常に発信し、希望者はシフトを考慮するなど柔軟に対応している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所と、日々の業務を通じ交流している。また管理者同士も定例会議を通して、他事業所の情報を共有し互いのサービス向上に役立てている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、傾聴と受容の姿勢で、ご本人と関わりを持ち信頼関係を築くよう努めている。受け入れられている安心を感じていただけるようコミュニケーションに重点を置いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡の際には、現在困っている事や不安な事、当施設への要望を伺っている。共感の意識を以て傾聴し、問題の解決と要望の実現へ向けて互いに協力し合える関係性づくりを目指している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人の生活歴や何を大切に思っているか、何に困っているのかなど、日々の関りの中で傾聴し、記録に残す事を徹底している。その情報を基に支援計画を策定し実施している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様其々の出来ることできない事を見極め、その方に応じた役割を担って頂き、共同作業の積み重ねの中で関係性を構築している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に来苑し面会して頂けるよう、毎月発行している【老花家だより】や声掛けを通して働き掛けている。来苑時には、普段の様子を報告して次の面会に繋がるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスと共同で行事を行ったり、家族との写真を飾ったりして、馴染みの人や場所との繋がりを実感して貰える工夫をしている。	コロナ禍以前は、利用者の親戚、友人、知人の面会を歓迎し、ゆっくり話せる場所を提供していた。また、かかりつけ医への受診時に、入院中の友人を見舞ったり、お気に入りの店に立ち寄って買い物したり、併設デイサービスに遊びに行く等、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めてきたが、現在は自粛中である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日の流れの中で、食事や体操、レクリエーション活動など、入居者様一同が集う機会を設けている。コミュニケーションが円滑であるよう、適宜職員が介入する場合もあり、良好な関係性が築けている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援の体制ではあるが、H29年1名、H30年2名は逝去に因る退居の為、その後の相談・支援の実績はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に行われているケアプランの見直しや日常生活の様子を通して、ご本人とご家族のニーズをくみ取り、介護計画に盛り込み実践している。	職員は、日常介護の中で利用者の思いや意向を把握し、面会時に家族と話し合いながら、要望や心配な事の解決に努めている。また、意向表出が難しい利用者には、職員が寄り添い、利用者の仕草や表情から思いを汲み取り、介護サービスに反映出来るように取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常にご本人やご家族と積極的にコミュニケーションを図り、これまでの経過などヒアリングして記録に残している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常にご本人の状態や様子観察に努め、変化が見られたら都度職員間で情報共有している。残存機能を見極め、記録を残す事を心掛けている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直し前にモニタリング・担当者会議を開催している。その為に日頃の介護記録の蓄積が重要になる事を職員間で共有している。	利用者、家族の意見や要望等を聴き取り、担当者会議の中で職員間で話し合い、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、話す機会の少ない家族とは、電話等で家族と連絡を取りながら要望を聴き取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、事実をありのままに記載し、ご本人の言葉をそのまま記録するよう指導している。イレギュラーなエピソードは朝礼・終礼の申し送りで共有し、その後のケアプラン策定に結び付けている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃の関りから見てくるニーズや課題は、記録を残し朝礼・終礼などで情報共有している。優先順位を見極め定例の会議で検討し、柔軟に対応できるよう努めている。その際、職員によって違う対応をせず、一貫性のある対応で、ご本人を混乱させない配慮をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のかかりつけ医・市役所など様々な資源を活用し、その情報共有を欠かさず行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	もともとのかかりつけ医へ定期受診を支援している。介護記録を基に日頃の様子や変化を主治医へ報告し、情報交換に努めている。突発的な体調変化も都度連絡相談し、適切な医療が行われるよう支援している。	入居時に、利用者や家族の希望を優先して主治医を決めている。かかりつけ医の受診に職員が同行し、家族にはその都度受診内容を報告している。管理者は利用者の健康状態をチェックして主治医に報告し、指示を仰ぐ等、適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護職は常駐していないことから、日常の様子変化は記録に残した上で、かかりつけ医療機関の看護職を窓口主治医へ相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはこれまでの経過を細かく病棟へ申し送り、退院時には、退院前カンファレンスに参加し、看護サマリーを基に報告を受け、情報の交換と共有を徹底している。又、入院中も電話や面会にて定期的に様子を尋ね記録に残して、職員間でも周知している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常日頃より、ご本人やご家族へ要望をヒアリングを試みている。先々重度化してから結論を出すのは困難で、予めの考えをご家族間で擦り合わせておく必要性をお話して理解を求めている。	契約時に、重要事項説明書を基に重度化や終末期に向けた方針について利用者や家族に説明している。利用者の重度化に伴い、家族の考えや希望を十分に聴き取り、主治医と話し合いながら、出来るだけ意向に応えられるよう支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の流れやAEDの操作方法に関して全職員で定期的に研修を行い周知徹底し、備えている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害・火災の避難訓練実施を通し、全職員がその手順や方法を把握している。	非常災害を想定した避難訓練を年2回実施し、通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所を確認して、安全に利用者を誘導出来るように取り組んでいる。近隣に住んでいる職員が数名いるので、非常時に駆けつける体制を整え、利用者全員が安全に避難出来るように職員間で話し合いを行っている。	年2回併設事業所との合同避難訓練を実施しているが、ホーム独自の夜間を想定した訓練を繰り返し実施し、夜勤者が安心して利用者を誘導できる体制作りを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する内部研修などを通し、職員自身が対応の是非を常に意識する職場環境づくりに努めている。	利用者の人格を尊重した介護の在り方を、折に触れ職員間で話し合い、意識づけを行っている。特に、入浴や排泄の場面では、利用者のプライドや羞恥心に配慮した支援に努めている。また、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に配慮したケアを実践し、出来る範囲で利用者の希望を優先して対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的な問いかけにならないよう、オープンクエストを意識している。意思決定が困難な方には適宜予めの選択肢を幾つか用意することもある。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設や職員の主導権を持つのではなく、あくまでもこれまでの生活を基にしたご本人の意思やペースを尊重している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前には、好みの着替え衣類を選んで戴いたり、お化粧やマニキュアなど楽しんでいる方もおられる。男性は電気シェーバーで髭剃りをするなどの支援をしている。2か月に一度訪問美容室を利用し、好みの髪型やヘアカラーにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間はテレビを消し、リクエストに応じてBGMを流している。一人ひとりの残存機能に配慮しながら役割を担って頂き、職員と共に準備や片づけなど行っている。	利用者同士が声を掛け合い、配膳や食器洗い、テーブル拭きを率先して生き生きと行っている。利用者の嗜好を聴きながら、職員が交代で作る家庭的な料理を提供し、利用者職員が談笑しながらテーブルを囲む楽しい食事風景である。コロナ対策以前は、外食にも出かけていたが現在は自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基礎疾患や服用薬の関係で禁忌な食材は職員間で周知しており、それを踏まえ好みにも配慮しながら、メニューを作成、調理している。形態も状態に十分配慮をして個別に対応している。食事や水分の摂取量は欠かさず記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期で訪問歯科に診てもらいながら、その方に応じたケアを心掛け、声掛けや介助をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、その方に応じた排泄の支援を行っている。	利用者が重度化してもトイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、早めの声掛けや誘導を行っている。また、夜間は、利用者の希望を優先してトイレ誘導を出来るだけ行い、利用者の自信回復とオムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態や水分摂取量、緩下剤の服用状況の情報共有と記録を行い、その方に応じた予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の入浴日はあるものの、それを強いることはせずゆっくり入浴を楽しんでいただけるよう支援している。	入浴は、利用者の状態や希望に合わせて行っている。浴室は清潔感や明るさを表現し脱衣所を広くとり、手すりを沢山設置して、利用者が安全に気持ちよく入浴が出来るよう配慮している。入浴を心待ちにしている利用者が多く、利用者と職員が一对一でゆっくり話し、楽しい気分で入浴できるように取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室環境の整備も含め、その方の生活習慣や体調・状況に応じて対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬に関して分からないことは、主治医や薬剤師に尋ね、疑問を残さない事を徹底している。処方薬に変更があった時には体調の変化の有無など、様子観察し、その記録と主治医や職員へ情報共有も欠かさず行っている。薬の管理は施設で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の役割分担や毎日のレクリエーション活動を通して活気ある生活環境の創造に努めている。季節行事の企画・開催で季節の移ろいを感じて楽しんで頂けるよう工夫している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響もあり、外出がままならないが、天気の良い日には少人数で近くの公園に散歩に出掛け楽しんで頂いている。	新型コロナウイルス感染症対策のため、この1年は人混みへの外出は控えてきたが、天気の良い日には、隣接団地の公園に少人数ずつ散歩に出かけたり、ドライブを楽しんだりして、利用者の気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際に管理して自分で使う事が適う入居者様は2名。使うことをせず、自身で持っていることで安心・満足している方が1名おられる。買い物支援時にはご自分で支払って頂くなどしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている入居者様は1名おられるが、自身で掛けることはなく、かけて欲しいとの訴えもない。ご家族には、遠慮なく施設へ連絡していただくよう声掛けを行っている。季節に応じた絵手紙など送付している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清掃や除菌を徹底している。室温調整や換気を心掛け、心地よい空間づくりを行っている。季節の野花を取りに共に出掛け、施設内に飾って季節を感じて頂く工夫をしている。	利用者が一日の大半を過ごすリビングルームでは、利用者と職員と一緒に作った作品を掲示し、季節毎の飾りで温かい環境を整え、利用者一人ひとりが、自分の居場所で脳トレやテレビを観たり、お喋りしたり、洗濯物を畳んだりして楽しんでいる。料理の配膳や食器洗い等も自分の役割として行い、家庭的で穏やかな生活空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同志の相性を考慮しつつ、共用空間での座席配置を行っている。共用空間には3人掛けソファも配置しており、思い思いに腰かけコミュニケーションを楽しむ場面も見受ける。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談の上、馴染みの家具や寝具、家族の写真や配置するなど、ご本人が心地よく過ごせるよう工夫している。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が使用していた馴染みの物を持ち込んでもらい、安心して過ごせるよう支援している。離設された利用者に対して、「お部屋を居心地よくしよう」と、ポータブルトイレの臭いを取り除き、冷気が入る窓にプラ段ボールで断熱し、亡くなったご主人の写真を飾る等、工夫を重ねている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当然ながらバリアフリーで手摺も設置している。杖や歩行器を使用する方も居られるが、その動線に配慮し安全を確保する支援を行っている。		